

令和 6 年度 業務指標（PI）による自己分析結果 要旨

安全で良質な水

- 適切な浄水処理により、水質管理に関する各指標は良好な数値を示しており、水質基準値に対する安全性は確保されています。引き続き、安全で良質な水の供給に努めます。
- 一方で、近年は突発的な降雨などにより異臭味物質の急激な濃度上昇が多発するなど、粉末活性炭注入による対応が常態化する傾向にあります。そのため、現在企業局では、突発的な水質異常に常時対応できるよう、原水水質の変化を注視するとともに、高度浄水処理の導入を進めています。
- 安全・安心な水道水を県民の皆様に継続して供給するため、水質異常の早期発見ができるよう、日頃から河川水質の監視を行い、水質管理の強化に努めていきます。

安定した水の供給

- 県営水道は、給水開始から 57 年が経過し、今後、水道施設の法定耐用年数超過率の増加が見込まれます。そのため、適切に点検や修繕を行うことで施設の長寿命化を図るとともに、計画的に更新を実施し、安定供給を確保します。
- 浄水場施設の耐震化は、令和 6 年度に完了しました。管路については更新時に耐震管に入れ替えることで耐震化する方針ですが、整備に長期間を要することから、優先順位を付け計画的に実施します。
- 浄水場事故割合は低下傾向がみられ、引き続き水道施設の適切な維持管理による事故の低減に努めていきます。今後は、各浄水場の施設能力を平準化するとともに、供給区域を再編することで、事故時の断水リスクの低減を図っていきます。

健全な事業経営

- 有収水量は減少傾向に転じた一方、営業費用は増加傾向にあり、平成 11 年度から料金を据置いているため、経常収支比率などは減少傾向となっています。
- 近年は水需要が減少傾向にあり、今後の給水収益の増加が見込めない一方で、老朽化施設の更新や耐震化等に係る費用、物価高騰による維持管理費用の増加が見込まれます。このことから、将来にわたり安定供給を維持するため、令和 8 年度から料金を改定することとしました。今後も、適切にアセットマネジメント等を実施するとともに、水需要に見合った施設規模に適正化することで経営改善に努めます。
- 事業量の増加に伴う増員で新規採用職員や水道事業未経験の職員が増加していることにより、水道業務平均経験年数は微減傾向にあります。専門技術やノウハウを確実に継承するため、内部研修を充実させるとともに、熟練技術者から若手技術者への OJT を推進しています。新型コロナウイルス流行の影響を受けて減少した研修時間については、研修を再開するとともに、開催方法をオンラインや動画研修、テキスト配布などに多様化したことで回復傾向となっています。